

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【保健体育／保健】

1. 対 象 ○年○組 ○人（男子○人 女子○人）
 落ち着いた雰囲気の中で授業に臨む生徒が多い中、自分の意見を意欲的に発言する生徒が存在することで、相互のコミュニケーションのつながりを感じることができる。なかなか自分の意見を表現できない生徒もいるが、少人数であることが自分の居場所をつくり、積極的にクラスに溶け込む要因となっている。
2. 単 元 名 「心肺蘇生法」（全4時間中、本時3時間目）
3. 単元目標 倒れた人が心肺停止状態の場合、急速に回復の可能性が失われつつあるため、迅速な対応で人命救助しなければならない。このとき、医療機器であるAEDの扱い方を理解することで、迅速な判断と適切な対応が蘇生率の向上に不可欠なものであることを学ぶ。また、実践を通して心肺蘇生の手順が習得できるようにする。
4. 本時の目標
- ・外部講師によるモデリングから、AEDの音声（指示）があらわす意味を理解し、状況に合わせた傷病者への対応について考察する。（知識・理解）
 - ・医療機器のAEDを活用し、前授業で学習した心肺蘇生を、迅速かつ適切な対応で実践できるようにする。（思考・判断・表現）
5. 授業展開

解決したい課題や問い

心肺蘇生と並行してAED（医療機器）を使用することにより、「私たちは何を意識して救助するようになるだろう。」

- 講師によるモデリングから、AED使用時の注意事項や音声の意味などを認識する。
- 考察する4つの資料からAEDの効果を認識し、解決したい問いへの対話につながるようにする。

AEDの適切な使用方法を考える

★考察1	★考察2	★考察3	★考察4
パッド装着前 こんな時、どうする？ ①身体が濡れている ②胸毛が濃い ③装着位置に湿布 ④ペースメーカーを使用している ⑤ネックレスを付けている ⑥妊娠している *これらの判断ができないと、AED性能は発揮されない。	調査の意味と目的 体に触れないでください？ ①「解析中です」 （何を調べてる？） 体から離れてください… ②「電気ショックが必要です」 （ショックの目的は？） 「充電中です。体から離れてください。ショックボタンを押してください。」	心肺蘇生の継続 どんな状況変化が… ①「ショックは不要です…！」 胸骨圧迫と人工呼吸を継続してください… ②「いつまで圧迫？」 （AED何も指示ないけど？） 圧迫…もう力がない!? ③胸骨圧迫の交代方法 （ベテラン技を披露） *AEDの次の音声はいつ？	AEDの疑問と効果 小さな子どもにパッド？ ①「パッドが大きすぎないですか？」 AED活用によって… ②「救命への効果は、今と昔で違いがある？」 *専門的に指導をされている方からのアドバイスは貴重！

担当した考察から解決したい問いにつなげる対話

- ①同じ考察シートの生徒でまとめ、モデリングからAEDの適切な使用方法を認識する。
- ②解決に苦しむ生徒には、理解を深めた生徒が分かりやすく支援する。
- ③自分が担当した考察資料について、グループ内で説明することができる。
- ④相互の説明をもとに、解決したい問いについて対話を通して理解を深める。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

* 1 グループ（4～5名）で活動する。

表現と思考

- ①心肺蘇生（胸骨圧迫）のみを、グループ全員が実践する。（前授業の復習）[6分]
* 講師が巡視し、必要があればアドバイスしている。
- ②解決すべき問いについて、学びシート（開始前）を記入する。考察資料を配布する。[7分]
* グループで担当する考察資料を決め、同じ考察資料の生徒でまとまる。

思考のプロセス

- ①講師が、考察項目に沿ってAEDを使用したモデリングをする。[15分]
* ポイントごと一時的に音声を止め、考察（注視）しやすいようにする。
* 「電気ショック」後2分間の胸骨圧迫の継続と、圧迫交代シーン及び説明をする。
- ②担当した考察内容を、対話しながら理解を深める。[5分]

対話と思考・表現

- ①グループで考察内容を説明し合いながら、解決したい問いへの対話を深める。
- ②学びシート（授業後）の記入 [7分]
- ③AEDを活用して、迅速かつ適切な心肺蘇生を実践する。[10分]

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

- ・指示により早く心肺蘇生をしなければ、その人が助からないと判断できるようになったと思う。
- ・AEDの診断は、その状況がわかりやすくなり、ショックすることで正常に戻し、蘇生率の向上につながっていると感じる。
- ・AEDを扱う際、迅速な対応と適切な対応が大切であることに気づいた。
- ・AEDが設置されている場所（施設）を確認しておく必要があると思う。
- ・AEDの音声に従って心肺蘇生をすれば、傷病者が助かる可能性はとても高くなる。
- ・AEDが準備できるまでに、できるだけ早く胸骨圧迫に取り掛かれるようにしたい。
- ・救助者が複数いたほうが、交代しながら救助に当たることができる。
- ・実際の場面に遭遇したとき、学習したことが冷静に取り組めるか心配な気持ちもある。
- ・AEDが準備できなかった時のことも、考えておかなければならないと思う。
- ・蘇生率を意識して、学んだことを迅速に取り組まなければならない。
- ・その人の身体状況によって、パッド取り付けに時間がかかるので胸骨圧迫を頑張らないと。

育成すべき資質・能力三つの柱から上記のあらわれを評価するための視点

①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・蘇生率を意識した迅速な判断と対応を理解している。 ・心肺蘇生法に従った人命救助ができるようになる。
②思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・AEDが果たす役割を理論的に説明することができる。 ・適切な取り扱い方法を考えることができる。 ・傷病者の状況に合わせて、意図的に取り扱うことができる。
③主体性・学びに向かう力 協働性など	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に不足している知識を、資料をもとに積極的に解決している。 ・理解できていない人に、わかりやすく説明することができる。 ・他者の意見を受け入れながら、考えを深めることができる。

授業実践振り返りシート（授業前後）

授業開始直後と授業終了時の学習課題に対する考え（あらわれ）を比較・分析することで、生徒の学習状況を把握し、授業設計診断4項目の視点に立って授業設計を見直す。

	授業開始直後の学習課題に対する考え	授業終了時の学習課題に対する考え
A さん	その人の状態を確認しながら、救助できるようになると思う。	AEDが心臓の様子を確認してくれるので、指示に従って対応ができ、適切な救助ができるようになると思う。
B さん	呼吸を取り戻せる確率をあげることができると思う。	心肺蘇生にAEDは欠かせないものだと感じた。呼吸を取り戻すために、心臓の状況を確認することで救助しやすくなったと思う。
C さん	倒れた人を発見した時の、対応の仕方が早くなると思う。	AEDの音声に従って救助すれば、その人の蘇生率をあげることができるという意識が持てると思った。

授業設計の振り返り	
解決したい 課題や問い	<ul style="list-style-type: none"> 意識させる問いかけにより、より深く学ぼうとする姿勢や行動につながった。 解決したい成果やゴールが、一人一人異なってしまうところが見られた。 注意すべき点やAEDを使用するメリットに焦点を当てた問い掛けにより、授業者が意図した思考につながると感じる。
考えるための材料	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決に向けたモデリングの活用は有効だと感じたが、講師がその都度説明をしてしまい、対話による解決につながらなかった。 モデリング以前に、各考察グループで対話・予想を立ててから実演をしたほうが、考える材料が有効活用できたように感じる。
対話と思考	<ul style="list-style-type: none"> これまでに学んだことを仲間と教え合い、確認しながら取り組んでいた。 モデリングから解決してしまい、深い学び合う対話につながらなかった。 考えるための材料を工夫し、話し合いのルールを設定し、考察内容を相互に話せるようにすべきであった。
学習の成果	<ul style="list-style-type: none"> 学習後の実習では、相互に新たな疑問を持ち話し合いながら取り組んでいた。 ワークシート上での表現では、学びがどの程度深まったのか読みにくい。 実習したことを文章化すると、学びの深さを感じ取ることができると感じる。

出典：

